

● 町民の広場

私の想い

環境に配慮しながら行動する



大崎第一中学校
3年
折下 汐香

皆さんは秋と言えば、どんな生き物が思い浮かぶだろう。私はトンボである。しかし、最近では、秋になっても指で数えるくらいしか見られなくなりました。

気になって調べてみると、ある棚田での調査では、八年前と比べてトンボの数が55分の1にまで減少したという。そして、その原因は大きく三つ、生息地の消失、生息環境の悪化、外来種の影響であることが分かった。さらに詳しく調べてみると、改修工事による水辺の減少、家庭排水による水質汚染も原因であることを知って、自分たちの生活を見直す必要があると思った。

調べる途中である言葉を見つけた。それは、「地球上に生きるものみんなの環境」であることに一人一人が配慮しながら、行動すること

が大事」という言葉である。共に暮らしやすい環境をつくるにはどうすればいいのか。そう簡単なことではない。

しかし、私たちの住む大崎町は、リサイクル率が全国一位である。ゴミのリサイクルは、環境汚染を防ぐ一つの方法である。これなら私にもできる。みんなにもできる。だから私は小さなことから始めていこうと思った。

これからの私たちの生活に少しでも多くの生き物が暮らしていけるように、先の言葉を思い出して、自然のことをしっかりと考え、行動していこうと思う。



大崎第一中学校
3年
森重 明輝

「笑の」ユズリヤ

今、「福笑い」という「笑顔」をテーマに作られた曲が話題になっていく。この曲の歌詞のフレーズに「きつとこの世界の共通言語は、英語じゃなくて笑顔だ」とある。また、作詞・作曲した高橋さんは、「自分の曲を聴いて、少しでも笑顔にな

つてくれたらいい。」とも話している。僕はそれを聞いて、言葉は通じなくても世界中の人が笑顔になるのは、とてもいいことだと思った。

では、そもそも「笑う」とどんないいことがあるのだろうか。例えば僕が、学校でいやなことがあっても、家に帰ると母がいつも「お帰り」と笑顔で言ってくれる。そうすると自然にほっとした気持ちになる。また、学校でも落ち込んだときに友達に、「元氣出せよ」とにこっとされると、やっぱり僕も笑顔が出る。つまり、「笑う」ということは、心を落ち着かせたり、楽しい気分にならせてくれたりする。これが「笑う」ことの素晴らしさだと僕は思う。

しかし、いくら笑っていいからと言ってなんでも笑っていいというわけではない。「笑い」には「いい笑い」と「悪い笑い」がある。

僕自身について言うと、友達の失敗をつい笑ってしまうこともあり、「悪い笑い」の方が多い気がする。友達の心を傷つけたり、人のやる気を奪ったりするこのような「笑い」はよくない。

同じ笑いでも「いい笑い」は相手にもプラスになるし、自分も気持ちがいい。これからは「悪い笑い」をなくして、「いい笑い」を増やしていきたい。

編集後記

例年より長く、多くの災害を残した梅雨期は終わりましたが、国民のための生業である公職者による、国民不在の政治や、国民の生命・財産を守るべき者による不審事や隠ぺいなどが、様々なメディアで、報じられております。

自然災害の様相も変わり、人間社会の様相も変化しているように思います。自らの立場、組織を守る為だけでなく、そこに暮らす住民の生活を、考えてほしいものです。

町議会では、議会基本条例を基に語る会を開催いたしました。住民の意に目を向けた議会活動を進めてまいります。皆様のご意見など、お聞かせくだされば幸いです。ここに、議会だより124号をお届けいたします。

(広報編集委員 中山美幸)

発行責任者 大崎町議会議長

中倉 毅